

# 平成 26 年度補正予算による継続課題に係る 継続評価書

研究機関 : 大阪大学、日本電気株式会社

研究開発課題 : 変動する通信状況に適応する省エネなネットワーク制御基盤技術  
の研究開発

研究開発期間 : 平成 25 ～ 27 年度

代表研究責任者 : 村田 正幸

■ 総合評価 : 適

(評価点 17 点 / 25 点中)

## (総論)

進め方等に若干の課題を残すものの、本研究自体は、推進されるべきであるが、アウトカム目標の達成について、さらなる注力が必要である。

## (コメント)

- 進め方等に若干の課題を残すものの、本研究自体は、推進されるべきである。
- 推進は妥当である。
- アウトカム目標の達成について、さらなる注力が必要である。

(1) 当該年度における研究開発の目標達成(見込み)状況及びアウトカム  
目標の達成に向けた取組みの実施状況

(5～1の5段階評価) : 評価3(評価点)

(総論)

ほぼ順調に進捗しており、概ね目標を達成できているが、今後は、ゆらぎ制御以外の部分ではなく、ゆらぎ制御による効果を高めることで目標を達成するよう、留意されたい。

(コメント)

- ほぼ順調に進捗している。
- 運営委員会等の意見を反映するなど、改善の試みもなされている。
- 概ね目標を達成できている。
- ゆらぎ制御によるネットワーク性能向上の可能性が示された。なお、当初目標に向けて努力されたい。
- 課題イ)においてスループットが従来技術の9倍であり、うち、ゆらぎ制御による効果が1.5倍とのことであったが、今後当初目標である10倍まで向上させるために、(ゆらぎ制御以外の部分でなく)ゆらぎ制御による効果を高めることで目標を達成するよう、留意されたい。

(2) 当該年度における研究資金使用状況

(5～1の5段階評価) : 評価3(評価点)

(総論)

全体的に予算は効率的かつ適正に使用されているが、無線システムについては、ゆらぎに絞って作り込んだ方が良かったのではないかとと思われる。

(コメント)

- 総合ビジネスプロデューサ費用が、費用に値する効果となっているか。
- 無線システムについては、色々な手法を取り込んでスループットを上げようとしているが、ゆらぎに絞って作り込んだ方が良かったのではないか。
- 予算は効率的かつ適正に使用されている。

### (3) 研究開発実施計画及びアウトカム目標の達成に向けた取組み

(5～1の5段階評価) : 評価3(評価点)

#### (総論)

進め方を工夫し、基本性能の向上に努めつつ、本研究の成果がダイレクトに反映できる部分とそうでない部分を明確に分け、アウトカム目標を達成できるよう留意されたい。

#### (コメント)

- 野心的な目標である。なお、スループットの向上のみならず、フェアネスの向上にも努めるべきである。
- 今後実行可能な実施計画が設定されている。
- アウトカム目標達成のためのユースケース例や応用例の検討は良くなされているが、このような例に対し、本研究の成果がダイレクトに反映できる部分とそうでない部分を明確に分け、最終的にきちんとアウトカム目標を達成できるよう留意されたい。

### (4) 予算計画

(5～1の5段階評価) : 評価4(評価点)

#### (総論)

全体的に妥当であるが、予算の約5割を使用する有線無線統合システムについては、その訴求点を明確にして進めるよう希望する。

#### (コメント)

- 全体的に妥当。
- 約5割を使用する有線無線統合システムについては、その訴求点を明確にして進めるよう希望する。
- 効率的で適切な計画が組まれている。

## (5) 実施体制

(5～1の5段階評価) : 評価4(評価点)

### (総論)

ビジネスプロデューサ制度が本研究の進展に寄与しているかは、やや疑問であるが、運営委員会などの体制も有効に機能しており、適切であると認められる。

### (コメント)

- 運営委員会などの体制上の工夫も見られる。
- ビジネスプロデューサ制度が本研究の進展に寄与しているかは、やや疑問。
- 引き続き、適切な実施体制が組まれている。
- 運営委員会も有効に機能しており、適切である。